

## 4.4 構成素構造

文は語の連鎖から成り立っている。しかし、文はただ単に語が直列的に並んだものではなく、語の間にはある一定の「まとまり」がある。つまり、文を構成している語の結びつきには強さの違いがあるのである。例えば、以下の文を考えてみよう。

(1) The boy read the book.

この文を二つに分割するとすれば、次のような大きな「まとまり」に分割できよう。

(2) [The boy] [read the book].

つまり、主語の the boy と動詞句の read the book に分割される。例文 (2) をさらに分割するとすれば、以下のような「まとまり」に分割できよう。

(3) [The boy] [read [the book]]

つまり、(1) の文は the boy と read the book という大きな二つの「まとまり」に分割され、さらに後者の read the book も read と the book という「まとまり」に分割される（さらに言えば、the boy や the book も the と boy, the と book にそれぞれ分割される）。このように、文というのはただ単に語が直列的に並んでいるのではなく、ある一定の「まとまり」によって構成されている。このような「まとまり」を**構成素 (constituent)**と呼ぶ。そして、(1) の文を構成素に分割して表示したものが以下のような**標示付き括弧 (labeled bracketing)**である。

(4) [S [DP [D the] [N boy]] [VP [V read] [DP [D the] [N book]]]]

決定詞 (determiner) の the と名詞 (noun) の book が結びつき DP の the book を構成し、それが動詞 (verb) の read と結びつき動詞句 (verb phrase) を形成する。この動詞句が、同じく決定詞の the と名詞の boy の結びつきから成る決定詞句と結合し、文 (sentence) という単位を形成する（文も一つの構成素である）。(4) の標示付き括弧からは、the と boy, the と book, read と the book はそれぞれ構成素を成しているのに対して、boy と read, read と the などは構成素を成していないということが分かる。さらに、(4) の標示付き括弧は、構成素構造は階層的な構造を持っていることを示している。つまり、the と book が決定詞句という構成素を成し、それが動詞 verb と結びつくことによってより大きな構成素である動詞句を形成する。そして、read the book という動詞句が、the と boy の結合から成る決定詞句という構成素と結びつき、より大きな構成素である文を構成する。

構成素が階層的な構造を成してより大きな単位を形成していくことは、以下の

ような文の解釈を考えてみると分かる。

(5) Jack killed the man with a gun.

(5) の文は**多義的 (ambiguous)** である。解釈が二つあり、一つは、「ジャックは銃でその男を殺した」という解釈である。もう一つは、「ジャックは銃を持っている男を殺した」という解釈である。関連する部分の構造を示すと以下のようになる。

(6) a. Jack [<sub>VP</sub> killed [<sub>DP</sub> the man] [<sub>PP</sub> with a gun]]

b. Jack killed [<sub>DP</sub> the man [<sub>PP</sub> with a gun]]

(6a) の構造では、前置詞句の *with a gun* が決定詞句の *the man* ではなく、動詞句を修飾していると解釈され、「銃でその男を殺した」という意味を表している。一方、(6b) の構造では、前置詞句の *with a gun* は動詞句ではなく、決定詞句の *the man* を修飾していると解釈され、「銃を持っている男を殺した」という意味を表している。つまり、前置詞句の *with a gun* がどの構成素と階層的に結びつくかによって解釈の多義性が生じているのである。

同様の例は他にも存在する。例えば、以下の文の解釈を考えてみよう。

(7) Jack and Mary or Tom went to the park.

この文の解釈も二通りある。一つは、「Jack と Mary が一緒に、または Tom が公園に行った」という解釈であり、もう一つは、「Jack と Mary、または Jack と Tom が公園に行った」という解釈である。関連する部分の構造を示すと以下のようになる。

(8) a. [<sub>DP</sub> [<sub>DP</sub> Jack and Mary] or [<sub>DP</sub> Tom]] went to the park.

b. [<sub>DP</sub> [<sub>DP</sub> Jack] and [<sub>DP</sub> Mary or Tom]] went to the park.

(8a) の構造では、Jack と Mary が構成素を成し、それが Tom という構成素と結合し、より大きな構成素を形成しているので、「Jack と Mary が一緒に、または Tom が」という解釈を表している。一方、(8b) の構造では、Jack という構成素が、Mary or Tom という構成素と結合し、より大きな構成素を形成し、「Jack と Mary、または Jack と Tom が」という解釈を表している。このように、文はただ単に直列的に並んでいるのではなく、構成素が階層的な構造を成してより大きな単位を成しているのである。

(永盛 貴一)